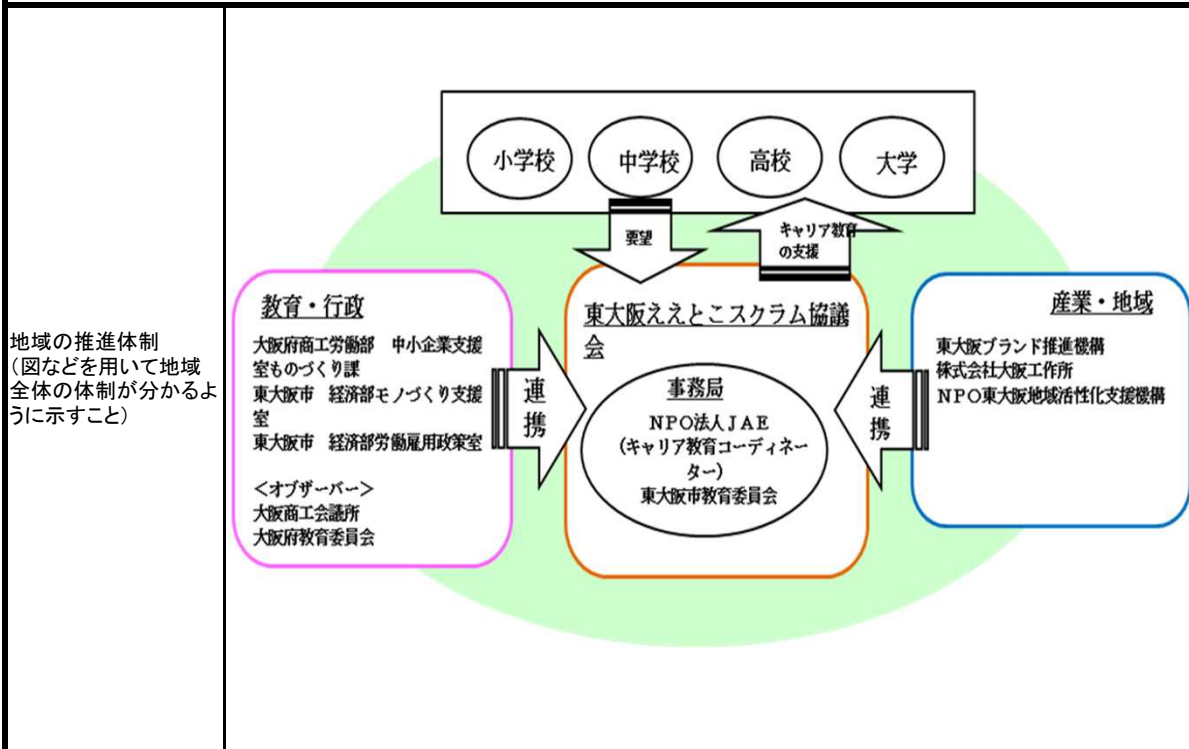


「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」実施報告書

1. 実施主体	
本事業を受託し、協議会の核となる自治体、もしくは経済団体等名	NPO法人JAE
2. 現状及び課題	
地域内でのキャリア教育に関する現状	<p>東大阪市におけるキャリア教育に関する現状については、</p> <p>(1) 小学校・中学校におけるキャリア教育の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全26中学校区においてキャリア教育の年間計画が策定されており、それぞれ校区ごとに「めざす子ども像」に向けた様々な取組みが行われている。 ・NPO東大阪地域活性化支援機構が東大阪市から委託を受け、年間5,000名程度市内の小中学生へ「モノづくり体験教室」という出前授業を実施し、小中学生がモノづくりの楽しさを授業の中で体験できる機会づくりを行っている。 ・市内の中学校全てで職場体験学習が行われており、中学生が働くことや仕事について、地域の中で実体験できる取組みが行われている。 ・学校外においては、製造業を中心とする約70社を束ねる「東大阪ブランド推進機構」が「モノづくりひろば」という子どもたちにモノづくりの楽しさを気軽に体験できるイベントが2013年12月より実施され、学校外でもモノづくりを体験できる機会が増えつつある。 <p>(2) 高校におけるキャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東大阪市立日新高校においては、毎年2年生の夏休みにインターンシップとして数名が東大阪市役所に実習を行うほか、大学進路希望者全員が大学見学を行う機会づくりを行うなど、生徒の進路にあわせた指導や機会づくりを行っている。 ・大阪府立布施北高校では、普通科では全国唯一の「デュアル学科」という地域の事業所へ年間を通じてインターンシップを行うカリキュラムを実施運営しており、地域一体となったキャリア教育の実践を行っている。 ・布施工科高校、城東工科高校では、実習やインターンシップを中心とした実践的なキャリア教育を展開している。 ・府立高校においては、教科学習や進路指導に重点をおいて各校特色のある教育を展開している。 <p>などがみられる。</p>
地域内でのキャリア教育に関する課題	<p>(1) 小学校・中学校におけるキャリア教育に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO東大阪地域活性化支援機構が小学生を対象にした「モノづくり体験教室」という出前授業は、毎年5,000名の児童へ体験教室を行っているが、学校側の要望は約10,000名ほどあり、需要に対して5割程度しか実施されていない現状がある。 ・中学校のキャリア教育の柱である職場体験活動において、受け入れ事業所の業種・職種の内訳は販売や飲食、サービス業や福祉・公共施設などの比率が90%を超え、製造業は約5%にとどまっており、市全体として掲げている「モノづくりのまち」としての地域資源が活かされていない。 ・現場教職員は独自でキャリア教育の取組を行っているが、「東大阪ならではの地域資源を活かした特色あるキャリア教育の推進」には至っていない。その背景には教職員自身が東大阪における地域資源や魅力を知らないことが大きいといえる。 <p>(2) 高校におけるキャリア教育に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校では進路指導・インターンシップなどキャリア教育の取組を各校で行っているが、現場教職員の力量に委ねられている現状があり、学校・地域のニーズと産業界の支援提供者の情報が集約・可視化・仕組化されていない。 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を考える上では、東大阪にある製造業の大半はBtoBが主体であり、部品など普段目に見えないものや1社では完成しないものを扱っている企業が多いが故に、子どもたちにとっては分かりにくいものである、というのは今後モノづくりを通じたキャリア教育を拡充させていく上では課題であるといえる。 ・今後の経済情勢を考えると、大企業に大量に人材が登用される時代は終わり、中小零細企業の1社ごとに1名を採用するという登用が主流になってくると思われる。その意味では、従来のように画一的なキャリア教育を供給することと同時に、ニーズに即した多種多様なキャリア教育の支援が必要になってくることは、学校教育で展開する上での課題であるといえる。 ・中小企業白書(2011)によると、製造事業所が減少・廃業する理由としては、「適切な後継者の不足」が資産超過の企業でも30%にのぼり、事業の担い手不足が深刻である。これは学校教育における人材育成(キャリア教育)を行う上で産業界側のニーズにどう対応していくかは課題だといえる。

3. 委託内容に対する取組

(1) 学校におけるキャリア教育に対する支援を目的として、地域の関係者が参画する会議体の設置及び運営



協議会の構成	団体名	役割
	東大阪ブランド推進機構	東大阪のモノづくり企業の代表組織 (今後の産業界側の連携・協働窓口として)
	株式会社大阪工作所	地元の産業界(特に経済同友会)との連携窓口 (職場体験・インターンシップの拡充および企業への啓発活動を行う際の連携窓口)
	NPO東大阪地域活性化支援機構	子どもへのキャリア教育支援を行っている地域団体として
	大阪府商工労働部 中小企業支援課ものづくり課	大阪の中小企業・モノづくりを支援するお立場およびMOBIO担当者として(協議会への指導助言協力など)
	一般社団法人東大阪青年会議所	東大阪で社会貢献活動を行う組織として
	東大阪市 経済部モノづくり支援室	行政として企業支援を行うお立場として
	東大阪市 経済部労働雇用政策室	行政として雇用・就職促進を行うお立場として
	東大阪市教育委員会 学校教育推進室	小中学校との連携・推進窓口として・実務担当
	東大阪市教育委員会 人権教育室	小中学校との連携・推進窓口として・実務担当
	東大阪市長官舎 小中学校校長会	小中学校との連携・協力組織として
	近畿大学大学院 総合理工学研究科 東大阪モノづくり専攻	専門人材の育成・輩出機関として
	東大阪大学	地域における大学教育・教員育成機関として
	東大阪市長官舎 立日新高等学校	市内でのキャリア教育推進における連携・協働校として
	大阪商工会議所 人材開発部人材育成担当	<オブザーバー>大阪キャリア教育ステーションのノウハウを活かした産業界側のアドバイザー
	大阪府教育委員会 市町村教育室小中学校課	<オブザーバー>大阪府の学校教育を推進者として教育界側のアドバイザー
目標	東大阪ええとこスクラム協議会では、地域一体となり東大阪における地域人材の育成を見据えた包括的な次世代育成支援を行い、主に6,000社ある市内の製造業の後継者不足(事業承継者不足)という産業界側の課題にも対応しながら、地域で暮らし、地域に根ざした事業所で働く人が生き生きと輝ける東大阪のまちな実現をめざす。	

方針	<p>(1) 包括的な次世代育成支援の具体策として、2019年を目標に、義務教育段階における東大阪独自の(A)「地尊感情を育むキャリア教育」および高校段階以降の(B)「東大阪の未来を担う地域人材の育成」を展開するために、1,000人の担い手づくりと500社の体験(協力企業)づくりおよび実施体制の整備を進める。</p> <p>(2) (A)「地尊感情を育むキャリア教育」については、小中9年間続く東大阪独自のキャリア教育施策実現のために、2015年度はモデル中学校区を定め、中学校における職場体験活動先の製造業の充実を目的に、事業所開拓および学校への働きかけを行う。</p> <p>(3) (1)の1,000人の担い手づくりについては、小中学校段階では昨年に続き、現場教職員への夏期「中小企業フィールドワーク研修」等を実施し、現場教職員の意識と外部資源を活かした授業づくりの技能向上をはかる。</p> <p>(4) (B)「東大阪の未来を担う地域人材の育成」については、産業界側の主な課題である製造業の後継者不足(事業承継者不足)を解決するために、①経営者育成 ②生産技術者育成の2種類の後継者育成について、昨年に続き高校段階へのキャリア教育としてのアプローチについて仮説づくりを行う。</p> <p>(5) (B)「東大阪の未来を担う地域人材の育成」について、高校生や東大阪大学・大阪商業大学等の大学生が、小中学生のキャリア教育プログラムの支援者として関わり自らがロールモデルとなることで、地域への愛着・当事者意識の醸成につながる機会設計を試行する。</p> <p>(6) 本協議会の認知を「東大阪ええとこスクラムBOOK」の活用やフォーラム開催等を行いながら学校に訴求し、昨年に引き続き東大阪市全域の小学校・中学校・高校のニーズの可視化と支援提供者とのマッチング・コーディネートを積極的に行い、協議会の果たす役割や必要な機能の明確化を行う。</p>
事業の自立的かつ発展的な運営体制	<p>(1) 協議会の事務局および全体コーディネート(関係組織との関係性構築など)・マネジメントおよびキャリア教育実践のマッチングをNPO法人JAEが行い、東大阪市教育委員会は独自のキャリア教育プログラムの体系化および体制構築(主に学校現場との連携)を中心に担うことで効率・効果的な協議会運営を行う。</p> <p>(2) 協議会継続のための予算確保は大きな課題であるが、2015年度は引き続きNPO法人JAEが東大阪市教育委員会と連携しながら実務を担い、また2016年度以降の自主財源確保に向けて、協議会の幹事にも指導助言を受けながら、地元の企業へ本取り組みの意義や企業側のメリットを提示した上で寄付金等を募る仕組みづくりを試行する。</p>
(2) 学校の教育活動に対して行われる、社会人講師の派遣や企業等が作成する一定の教育コンテンツの提供などによる支援の促進	
① 支援を提案する支援提供者を開拓すること	
<p>「東大阪ええとこスクラムBOOK」および2014年の実践内容・新聞記事等を活用し、市内の事業所へ自社の広報戦略・人材育成として教育活動へ参画することを訴求しながら、市内の事業所を6つのエリアに整理し、エリア毎に開拓を行う。</p>	
② 支援に関する提案を学校に提示すること。	
<p>(1) 小中学校においては、校長園会および市内全域のキャリア担当者が集う担当者会にて、「東大阪ええとこスクラムBOOK」を用いて協議会の周知を行い、各校区へキャリア教育のコーディネート支援メニューを提示し活用を働きかける。</p> <p>(2) 高校においては、東大阪市立日新高校および、府立高校のキャリア担当者へ向け「東大阪ええとこスクラムBOOK」を用いて協議会の周知を行い、各校区へキャリア教育のコーディネート支援メニューを提示し活用を働きかける。</p>	
③ 個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。	
<p>上記の「②」にて具体的なコーディネートが発生した場合、専任のキャリア教育コーディネーターおよび教育委員会担当者が、現場担当者へ説明会を開催し、具体内容の説明および学校の状況にあわせた授業実施における支援・アドバイスをを行う。その際は昨年の実践を踏まえた教員向け実施フローチャートを配布しノウハウの還元を行う。</p>	
(3) 学校の教育活動として校外で実施される職場見学、職場体験活動及びインターンシップ等に対する支援の促進	
① インターンシップ等の実施場所として児童生徒の受入れを提案する支援提供者を開拓すること。	
<p>中学校のキャリア教育の柱である職場体験活動において、受け入れ事業所全体のうち製造業の割合は全体の約5%にとどまっていることから、市全体として掲げている「モノづくりのまち」としての地域資源が活かされていない現状を改善するために、東大阪ブランド推進機構や地元の経済同友会と連携し、小中高の児童生徒の教育活動の場として製造業での協力企業の開拓を中心に市内の事業所の開拓を行う。</p>	
② インターンシップ等に関する支援提供者の提案を学校に提示すること。	
<p>(1) 小中学校においては、市内全域のキャリア担当者が集う担当者会にて、「東大阪ええとこスクラムBOOK」を用いて協議会の周知を行い、各校区へ職場見学メニューやインターンシップメニューを提示し活用を働きかける。</p> <p>(2) 高校においては、東大阪市立日新高校および、府立高校のキャリア担当者へ向け「東大阪ええとこスクラムBOOK」を用いて協議会の周知を行い、各校区へインターンシップメニュー等のコーディネート支援メニューを提示し活用を働きかける。</p>	

③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。

上記の「②」にて具体的なコーディネートが発生した場合、専任のキャリア教育コーディネーターが学校と企業等との仲介に入り、双方の要望を踏まえた円滑的なコーディネートを行う。

(4)その他の取組

- (1) 昨年に続き、市内の各中学校区のキャリア教育担当者向け研修として、地元の魅力を発見する町工場へのフィールドワーク研修を実施し、教職員が地域資源を理解し、授業を通して子どもたちへ地域の良さを伝える技能の向上をはかる。
- (2) 秋に「子どもキャリア会議」(仮)と題して、小学校5年生～中学校1年生を対象に学校外の施設にてキャリア教育プログラムを実施する。学校と連携し、複数の学校合同型の授業にすることで、プログラムを多くの児童生徒へ提供することを実現する。
- (3) 既に地域の事業所が行っている教育支援活動の支援を地域教育協議会やPTAと連携しながら行い、将来的に地域人材が地域の教育支援を行う体制について意見交換を行う機会を設定する。
- (4) 企業へのキャリア教育支援を促進するための啓発活動(セミナー実施など)
- (5) 他地域で類似した先行事例を実施している団体をゲストに本協議会の運営方法や自立化に向けた勉強会の開催

4. 実施内容

実施時期	実施内容
2015年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度の協議会の行動計画策定 ・学校教育や職場体験、インターンシップ等で協力可能な事業所開拓 ・市内の校長園会にて協議会の活動の周知をはかる
2015年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル中学校区の決定 ・学校教育や職場体験、インターンシップ等で協力可能な事業所開拓 ・支援の要望があった学校現場担当者に対して説明会等を開催 ・(仮)「子どもキャリア会議」の企画立案 ・高校、大学へのインタビューおよび連携のための働きかけを行う
2015年7月～8月	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校のキャリア教育担当者向けフィールドワーク研修 ・市内のキャリア教育担当者へ協議会の周知およびコーディネート支援メニューの提示 ・学校教育や職場体験、インターンシップ等で協力可能な事業所開拓 ・企業向けセミナーの開催
2015年9月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル校区ならびに小中高でのキャリア教育実践コーディネート・支援提供者とのマッチング支援 ・(仮)「子どもキャリア会議」の実施 ・他地域へ先進事例の視察(もしくは講師として招いての勉強会)
2016年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル校区ならびに小中高でのキャリア教育実践コーディネート・支援提供者とのマッチング支援
2016年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会主催による「東大阪ええとこスクラムフォーラム」開催
2016年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の総会開催、2015年度の成果と課題の総括、次年度以降の申し送り

5. 協議会の成果と課題

※計画段階で示していた検証方法等を踏まえ、客観的・具体的に記載すること。
※成果を踏まえた今後の課題についてもあわせて記載すること。

・東大阪ええとこスクラム協議会の周知として、年度始め校長園会で広報活動。それによりキャリア教育研修参加増やメディアへの掲載につながった。

・こども「ええとこ」会議では、町の職業を通じて、東大阪の良さを知るをテーマに、東大阪で活躍しているゲスト講師の先生にお越しいただきキャリア教育プログラム開発・プログラム実施
大阪府が示しているアンケートを用いて参加している子どもたちへの効果のほどを検証
参加の子どもたちのアンケート実施(参考資料として提出)

・キャリア教育研修(中小企業フィールドワークバスツアー)実施
昨年の10名の参加から、今年は倍の先生方にご参加いただいた。東大阪にある企業や学校を知る機会になり

参加した教員からは今後の教育活動に活かせる内容だったと感想をいただく。
今後、学校の先生のニーズに合わせた研修(時期・時間・内容)を実施を検討し、東大阪のキャリア教育担当者が全員参加できるような位置付けに働きかけていきたい。
教員アンケート実施(参考資料として提出)

・キャリア教育推進連携表彰の「奨励賞」を受賞したことで、他の地域に東大阪の取り組みを知ってもらうことができた。「地尊感情」を育むことが「自尊感情」につながるということを東大阪地域や他の地域へアピールもでき、来年度以降の取り組みの活動が加速してきた。(協力したい企業さんとのつながり)(メディア掲載)

・東大阪の高校や大学との関係性の構築まではできなかった。今後、地域の企業などにインターンシップや大学生の進路選択に活かせるような働きかけを実施する。

・東大阪市としても予算確保でき、東大阪市教育委員会主導で来年度も東大阪の子どもたちへの自尊感情を高める取り組みやキャリア教育プログラム開発の汎用に勤める